

るこの以後中作より下知さまに打て出るあらは急夜軍
法を以て討ち入るゝと觸るふ城中より兵糧尽て二三日を
懸るに依りて死城せば後詰の勢もあらずみくも餓
死せし精力の盡きしうち花や一軍討死し居る後
代は残さんとて大手此門を突きつ度には固を作りかけ
糸と糸を下知さまを金柵より外に出せざりたり
城中に突かれ遠くを走る柵引破る敵の的あり
やむことおられん付入しせむとあて前後不知城
中へ引退く家系是をも追ひ只守り詰て居られ香
綱宗徒の人々討義しんとて圖書に助進し出建し城に

て切を立んま成りかきし君いふと申若くは末頼母く
いあり幸む鮭川の一方敵取巻され先座内へ退き
時玉をも待有る能きしと申され一同は義軍に成し
と申るも香綱少時と思案し誠は善なり余理當り
ありとて座内には入らず舟より座内の光景を觀そ
は驚しれられある此種をみるより義虎公よりされ
は悔何んとして能く守に三百名隊お添城を守り也
七月上旬山城に降陣あり終りぬ